

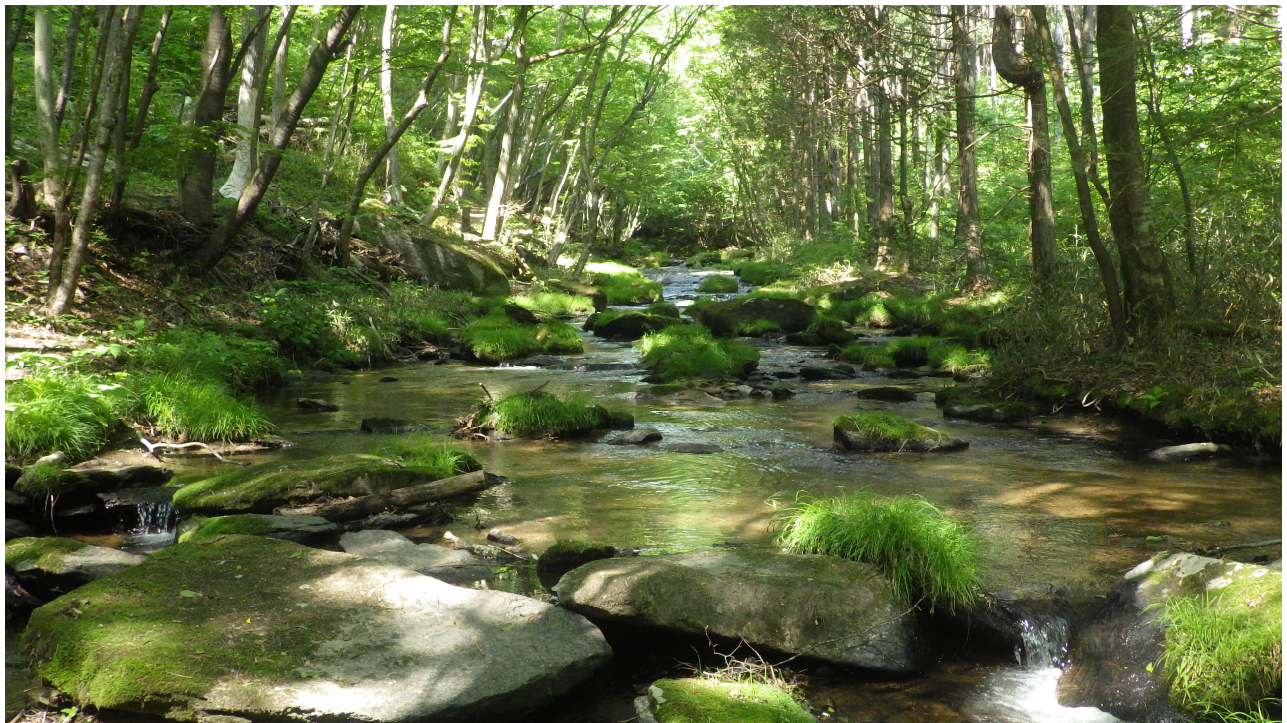
令和8年7月1日



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



【写真】深緑の滝川渓谷（棚倉森林管理署）

- ◎ 昭和100年を契機とした新たな分収造林の取り組み 森林整備課・・・1
- ◎ 森林管理署等からの便り 日光森林管理署、茨城森林管理署・・・3
- ◎ 治山事業の現場から 大井川治山センター・・・5
- ◎ 森づくり最前線！ 東京神奈川森林管理署 丹沢森林事務所 首席森林官 丹治 利文・・・6



昭和100年を契機とした新たな分収造林の取り組み 関東森林管理局 森林整備課



森林が迎える転換期

昭和100年という節目を迎えるに当たり、関東森林管理局では「昭和100年記念分収造林」の取組を進めています。本取組は、戦後の復興期から高度経済成長期にかけて造成された人工林が本格的な利用期を迎えている中、先人たちが育ててきた森林資源を次世代へ確実に引き継ぐことを目的とするものです。

現在、我が国の森林は大きな転換期にあります。利用期を迎えた人工林では伐採が進みつつある一方で、その後の再造林をいかに確実に実施するかが重要な課題となっています。現場においては、苗木の確保や造林コストの上昇、担い手不足などにより、再造林に対する不安の声も聞かれています。



伐採後の再造林地

分収造林という仕組み

こうした課題に対応する手法の一つが、分収造林です。分収造林は、造林者が国有林に植栽を行い、保育や伐採を経て得られる収益を造林者と国が分け合う制度であり、これまでも民間の資金や労力を活用しながら森林整備を進めてきた仕組みです。



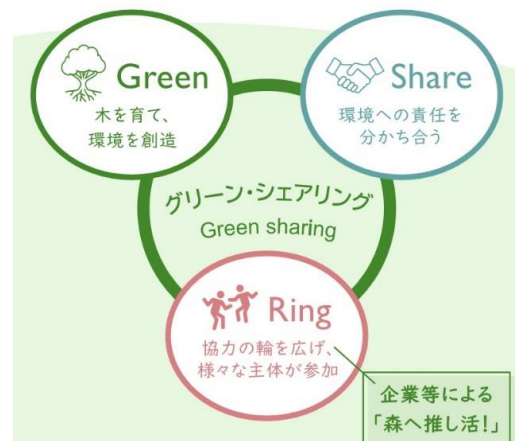
職員による苗木の植付指導



造林者による植付

昭和100年記念分収造林の特徴

今回の「昭和100年記念分収造林」では、こうした従来の制度と併せて、多様な樹種を育て、豊かな環境を育み、次世代へ引き継ぐ責任を分かち合うことをコンセプトにした分収造林を「グリーン・シェアリング」と名付け、様々な企業等にご参加いただくことを目指しています。



グリーン・シェアリングでは、契約期間を長期とし、皆伐面積を抑制するなど、環境に配慮した施業を基本としています。また、針葉樹に加え広葉樹を取り入れた多様な森林づくりを進めることで、生物多様性の保全や水源涵養機能の向上など、森林の公益的機能の発揮を図ることとしています。

現場から広がる連携

また、造林したことによる水源涵養機能、環境保全（温暖化防止）機能等の評価を数値化した「環境貢献度評価」を国からお知らせする仕組みも導入されています。これにより、企業等にとっては環境貢献活動をアピールしやすくなり、継続的な参画につながることを期待されます。

関東森林管理局管内においても、既に契約に向けた調整が進められている箇所もあり、公募候補地の公表や各種会議・イベント等を通じて、幅広い主体に対して参加の呼びかけを行っています。現場では、本取組を契機として、地域や企業との新たな関係構築が進みつつあります。



公募候補地の現場案内

HP リンク

関東森林管理局における
公募候補地のご案内 ▶▶



次の時代の森林づくりに向けて

森林は、木材の供給に加え、水源の涵養、国土の保全、地球温暖化の防止、生物多様性の保全など、私たちの生活を支える多面的な機能を有しています。これらの機能を将来にわたり持続的に発揮させていくためには、確実な再造林と計画的な森林整備が不可欠です。

本取組は、昭和の時代に築かれた分収造林の仕組みを現代の課題に即して活用し、次の時代の森林づくりへとつなげていくものです。関東森林管理局としては、今後とも多様な主体との連携を深めながら、持続可能な森林づくりを着実に推進していく考えです。

今月の“表紙” たきがわけいこく 深緑の滝川溪谷 （棚倉森林管理署）

福島県矢祭町の国有林内にある東北最南端の秘境「たきがわ滝川溪谷」は、全長 3km、高低差約 300m の散策路内に見事な四十八滝が連続する県内でも珍しい秘境の地で、「福島の遊歩道 50 選」にも選ばれております。溪谷には、美しい滝、巨大な奇岩や天然の老木が茂り、春のカタクリ、夏の深緑、秋の紅葉など、一年を通じて訪れる人を魅了しています。



ちようし くち
銚子の口滝



溪谷をのぼった先にある休憩所・直売所
“**滝川の里**” **十割そば** がおすすめです！

地域発

森林管理署等からの便り

～森林管理署等における現場の取組をご紹介します～

『保持林業』、木材生産と生物多様性保全の両立を目指して

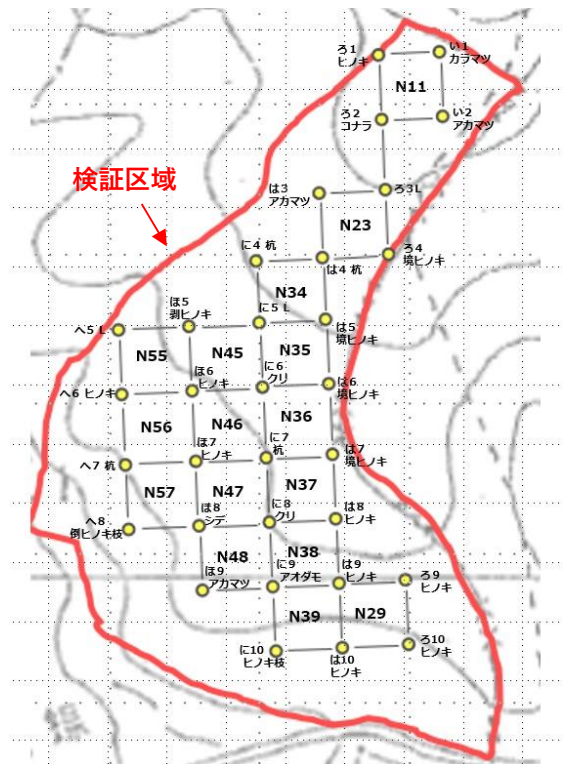
■ 日光森林管理署

すべての森林は、多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与しています。その一方で、主伐期を迎えた人工林資源の利用も進めていく必要があり、この両立を図ることが求められています。

日光森林管理署では、主伐期を迎えたスギ等の人工林の皆伐に当たり、尾根筋や溪畔周辺などに加え、伐区内に単木的に生育している広葉樹を保全し、木材生産と生物多様性保全を両立させる「保持林業」の検証を進めていくこととしています。

具体的には、伐採・地拵作業の支障にならない高木性広葉樹の中からもなるべく多様な樹種を選び、ヘクターあたり20本程度を保全する考えです。

これから、民有林の関係者と勉強会を兼ねて選木を行い、伐採後には選木した保持木の損傷状況や伐採・地拵作業の生産性等について検証し、さらには被陰による植栽木の成長の影響や伐採前後の鳥類の組成の変化等についても継続的に職員によるモニタリングを行うこととしています。



人工林内の広葉樹を保全し、生物多様性の保全に寄与

保全する広葉樹を選木するためのプロット設置

- 2.39haの区域内に16プロット(30×30m)を設置
- 1プロットにつき2本程度、保全する広葉樹を選木
- (●点はプロットの境界木)

低コスト施業の森林で 将来の森林づくりについて意見交換を行いました！

■ 茨城森林管理署 (令和8年6月12日 in 高萩市蟹沢国有林)

国有林では、造林の省力化・低コスト化の観点から、従来3,000本/haであった植栽密度や、下刈回数の見直しを進めてきており、茨城森林管理署においても多くの森林が2,000本/haで植栽し、下刈回数も3回から4回程度で切り上げているところです。

このようにスタートした森林がどのように育っていくのか。低密度植栽によりうっぺいまでの時間が長くなるのが指摘されていますが、低コスト施業に切り替えてから10年程度が経過した造林地では、従来に比べ天然木（広葉樹）の混交や、つるの繁茂が多い傾向にあります。

一方、現場では、効率的な施業や生物多様性に配慮した施業などの具体化が求められていることから、除伐段階の広葉樹をどう扱っていくか、森林総合研究所の皆様や森林技術・支援センターの職員と現地で意見交換を行いました。

意見交換の中では、「周囲に人工林が多いエリアではいずれ広葉樹は淘汰されてしまうのではないか」、「広葉樹を積極的に残す場合は、“^{しょうらいぼく}将来木”（最後まで残す木）になるものを特定して活かす必要があるのではないか」といった様々な意見がだされ、その森林の経営目標に沿った施業の必要性を改めて確認することができました。

**“将来の森林の姿”を意識した
活発な意見交換が行われました！**



部分的に広葉樹の混交がみられる10年生の人工林



GREEN×EXPO 2027 ～幸せを創る明日の風景～

2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス（A1）の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じて、グリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。

詳細はこちら ▶▶ <https://expo2027yokohama.or.jp> HPリンク ▶▶
チケットサイトはこちら ▶▶ <https://ticket.expo2027yokohama.or.jp/>



メインガーデンイメージ（2026年3月現在）
画像提供：GREEN×EXPO協会



©Expo 2027



大井川治山センターの概要

大井川の源流部にあたる南アルプスは、西側を中央構造線、東側を糸魚川—静岡構造線によって区切られ、標高が高く、昼夜の気温差が激しいことから風化が進み、非常に脆弱な地質条件となっています。また、これら地質条件に加え気象条件も厳しく、年間降水量が3,000mmを超える地区もあり、山地崩壊が発生しやすい地域です。

このため、静岡県等からの要請を受け、広範囲にわたる大規模崩壊地の復旧等を図るため、昭和41年度から井川湖上流に位置する大井川地区の私有林直轄治山事業に着手し、平成13年度に大井川中流域の榛原川地区を事業区域に加え、関東森林管理局直轄の大井川治山センターとして事業を実施しています。



山腹工：小河内工区

大井川治山センターの治山事業

大井川治山センターでは、荒廃した溪流の不安定土砂の固定と流出防止のための“溪間工”、崩壊した山腹斜面の安定と表土の浸食を防止し早期に緑化を図る”山腹工”を継続的に実施してきました。

令和8年度は、山腹工や溪間工の新設・補修の工事7件（二箇年国債1件を含む）と調査設計1件を実施しており、私有林直轄治山事業の全体計画に定められた整備目標・整備方針に基づき計画的に事業を進めています。



溪間工：東河内工区

新たな工法・新たな取組

大井川治山センターの事業地は、山間奥地で厳しい自然環境にありますが、この立地を活かして新たな工法の開発・検証を行っています（過酷な条件下でも実効性の高い緑化技術など）。また、事業現場の生産性の向上を目的として、UAV 写真測量や地上レーザスキャナ測量（TLS 測量）、遠隔臨場など、ICT を活用した効率的な施工管理についても導入・検証を行っています。



遠隔臨場のイメージ

現場に直接赴かず、カメラや通信機器を通じてリアルタイムで現場の確認作業を行うことで効率化を図ります。

おわりに

治山事業を円滑に実施するためには、地域の皆様、関係各機関のご理解とご協力が不可欠です。地元説明会の開催、地域イベントへの参加、登山道の清掃活動など、これからも地域とのつながりを大切にして、大井川流域の安全と安心を確保できるよう治山対策に取り組んでまいります。

連載
シリーズ

森づくり最前線！

東京神奈川森林管理署 丹沢森林事務所 首席森林官 丹治 利文

私の勤務する丹沢森林事務所は、神奈川県
の北西部に位置する丹沢地域と世附地域、二つの
エリアに所在する国有林を管理しています。

丹沢地域には、国有林 2,159ha（山北町、
秦野市）と官行造林地 623ha（山北町、南足柄
市）があります。この地域は、天然林が大半を
占め、保安林、鳥獣保護区、丹沢大山国定公
園、保護林、緑の回廊等に指定されており、自
然環境の維持や生物多様性の保全を重視して管
理しています。



中央奥、蛭ヶ岳 1,637m

(手前に国有林が広がる)

首都圏に近い立地から、県内最高峰の蛭ヶ岳や丹沢山、日帰り登山で人気の塔ノ岳、鍋
焼きうどんなどで有名な鍋割山などを目指し、毎年多くの登山者が訪れています。丹沢地域で
は、保護林や境界の巡視、貸付地（山荘など）の現況確認が主な業務ですが、道中の歩道
沿いでは、数年前からナラ枯れが発生しており、これらの被害木に注意喚起の表示を行う
のも重要な仕事のひとつとなっています。



破られた防護柵



クマによる樹皮剥ぎ被害

世附地域には、国有林 4,713ha と官行造林地 50ha があ
ります（いずれも山北町）。この地域では、木材需要の増
加に伴い、スギなどの人工林造成がすすみ、森林施業が
行われてきました。伐採後の植栽時には、獣害防止対策
として、防護柵を設置していますが、イノシシなどによ
って柵が壊されることもたびたびです。シカの出入口と
なってしまうため、壊される都度、補修を繰り返してい
ますが、特にエサの少ない冬期間は巡視を強化し、食害
の未然防止に取り組んでいます。

また、現場に出向いた際には、周囲に目を配り、森林
被害が発生していないか確認しています。赤く色づいた
立木が目にとまりますが、根元を見ると、そのほとんど
がシカやクマにより樹皮剥ぎ被害を受けています。そん
な時は、「人が襲われなかっただけでも良かったか」と思
うほかありません。

丹沢森林事務所での勤務も今年で4年目になりま
す。森づくりの最前線である森林官として従事できる
ことに日々感謝しながら、業務にあたっています。今
後も事務所職員一同、ケガすることなく安全に現場作
業を実施できるよう努めてまいります。



樹高測定している筆者